

### 1.口腔外科手術後などの口腔機能の修復に関与する歯科技工士の役割.

陶山日出美 仙台歯科技工士専門学校非常勤講師

歯科技工の学問領域は、歯科臨床のなかでも補綴科との関連が大きく、次いで保存科、歯科矯正科などと結びつきを持って発展してきました。そのため、過去口腔外科との関連を持った歯科技工についての系統的成書は多くはありませんでした。しかし、現在はその情報を業界紙、net等で多数散見でき、興味、知識を必要とする歯科技工士にとって多くの知識を得る事ができる様になりました。

口腔外科手術と関連する技工、手術結果として予知される器質的障害、機能的障害に対する治療としての歯科技工を、清水らは（大分大学名誉教授）歯科・口腔外科技工（学）と呼称していました。従来歯科技工が補綴領域に対応しているのに比べ、歯科口腔外科技工は口腔外科・耳鼻咽喉科 口腔腫瘍外科・形成外科などにおける頭頸部がん 口腔がん 口腔外傷・口腔領域先天性形成不全などの治療処置、修復処置に貢献しています。そのため、口腔外科技工は今までの歯科技工以上に生物学的学問領域が多くを占めています。

今回、大学病院在職中に経験し、発表した症例の解説を行いたいと思います。

### 2.咀嚼のnext stage 口腔機能の修復に関与する歯科技工士の役割 .

「日本歯技」第538号2014年4月号掲載内容を基本に解説

陶山日出美 仙台歯科技工士専門学校非常勤講師

摂食・嚥下障害は様々な原因によって生じ、小児から高齢者まで幅広い年齢層に及びます。そのため、嚥下障害患者は様々な医療機関を受診します。各医療機関に求められる嚥下障害への対応はそれぞれ異なりますが、過去に勤務していた大学病院では地域の基幹病院として様々な役割が期待されていました。そこで、大学病院で製作経験した摂食・嚥下障害に対応する口腔外科技工の装置を供覧します。装置は機能的障害と器質的障害への摂食・嚥下補助装置となる舌接触補助装置 (Palatal Augmentation Prosthesis :PAP)、軟口蓋挙上装置 (Palatal Lift Prosthesis:PLP)、鼻咽腔閉鎖装置(Speech Bulb)などがあり、装置の機能的障害と器質的障害を解説します。

器質的障害と機能的障害とは？

齶蝕により歯冠部が崩壊している、または歯牙喪失によりものがよく噛めない等の対応として歯科技工によりインレー、クラウン、ブリッジ、義歯等が製作されます。これらは器質的障害の対応になります。歯科技工において、器質的障害、機能的障害という分類の教育はなされていませんが、摂食・嚥下障害は機能的障害、器質的障害があり、他に心因的障害の3原因に分けられます。心因的障害での自験例が無いため説明は省略します。機能的障害は中枢神経疾患、末梢神経疾患、筋疾患などに分けられ、嚥下関連器官自体の欠損等がなく、見た目には異常は発見できませんが飲み込み等の行為の動き、運動がうまく動かないなどの障害があります。原因として脳血管障害、神経障害などがあります。

### 3.床副子に関する技術の見直しに関与する口腔内装置の解説.

陶山日出美 仙台歯科技工士専門学校非常勤講師

2018年4月1日より実施される社会保険歯科診療における歯科技工関連部門の知識と解説の概要版が日本歯科技工士会より送付され、その内容の中に下記項目がありました。

「床副子に関する技術の見直し」(「歯科点数表 第8部 処置」関連)

1.歯ぎしりや睡眠時無呼吸症候群治療のための咬合床の保険点数が定められている「床副子」の名称が今回から「口腔内装置」や睡眠時無呼吸症候群に対する口腔装置等に変更になりました。主な項目の製作技術点数等を以下に示します。(日本歯科技工士会より送付された「社会保険歯科診療における歯科技工関連部門の知識と解説」p20より抜粋)

口腔外科分野の装置名称が床副子から口腔内装置として変更掲載された理由は不明ですが、口腔内装置は義歯等の補綴物とは異なる分野の名称として新たに加えられました。そこで改めて装置の目的などを文献で考察を試みたので解説します。

顎顔面補綴などと称される口腔外科技工に関する名称が統一されていない現在、床副子から口腔内装置への名称変更は口腔外科技工分野の業務の社会認知度が広まるきっかけとなり得ます。また名称変更は、装置の重要性を認知される事により口腔外科技工に関する分野の名称の確立にもつながるのではないかと期待されます。

講演内容は2018年8月26日平成30年度日本歯科技工学会九州 沖縄支部学術大会、2018年11月2日第20回日本口腔顎顔面技工学会学術大会で発表した内容の解説となります。

<プロフィール>

1978年3月九州歯科技工士専門学校卒。

同年 4月久留米大学医学部附属病院歯科口腔外科勤務。

2016年3月久留米大学医学部附属病院歯科口腔医療センター退職。

同年 4月仙台歯科技工士専門学校非常勤講師。

現在に至る。

<所属する学会>

日本口腔顎顔面技工学会

日本顎顔面補綴学会

日本音声言語医学会

日本摂食嚥下リハビリテーション学会

日本法歯医学会

日本歯科技工学会

